さい帯血バンクNOW

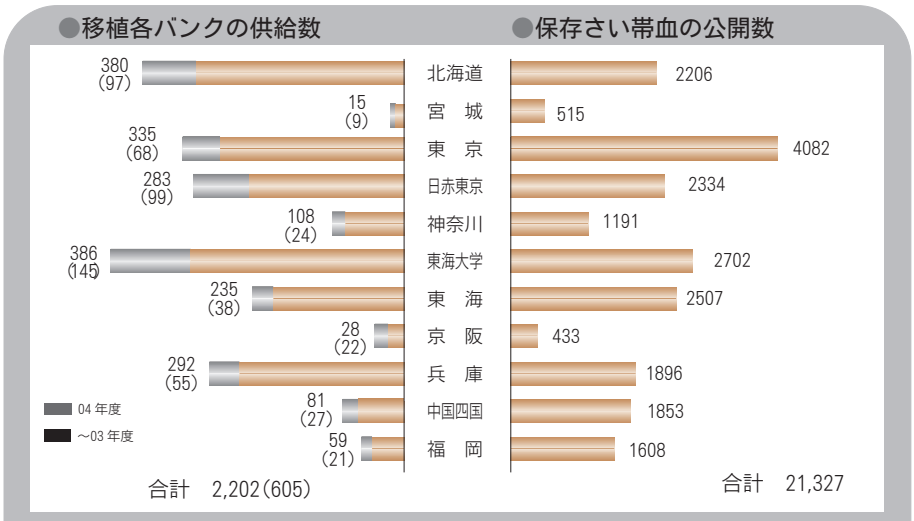
第22号

2005年3月15日発行
日本さい帯血バンクネットワーク
発行者：鎌田薫(会長)
〒105-0012　東京都港区芝大門1-1-3　日本赤十字社東館６階
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417　http://www.j-cord.gr.jp/

情報一元化の要望も

骨髄とさい帯血　公開フォーラムに190人

激論！　明日の造血幹細胞移植――と題して、「第２回骨髄バンク・さい帯血バンク合同公開フォーラム」が２月27日、日本赤十字社本社会議室で開かれました＝写真。会場には両バンクの関係者をはじめ、患者家族、マスコミ関係者など190人もの参加があり、昨年より広い会場もあふれんばかりの人でした。



（注）①　グラフデータは2005年２月末現在
②　左のグラフの数字は供給数、カッコ内が04年度供給数
③　左のグラフは供給数であり、複数さい帯血同時移植（２本のさい帯血に同時に移植）が11例行われているため、累積実施移植数は、2191例。複数さい帯血同時移植は、02年度３月、03年度３月、４月、５月、７月、10月、２月、04年度４月、５月に実施。

切実な「治療選択」

両バンクの現状や、それぞれの移植成績などの基調報告の後、医師がどう考えて治療方法を選択するかについて、国立がんセンターの森慎一郎先生から興味深い話がありました。

その後、治療の選択・成績について、医療費・負担金について、ドナーについて、バンクシステムについてと活発な議論が続けられました。

特に治療の選択のところでは、化学治療を続けるか、骨髄移植にするか、さい帯血移植を選択するか。医療施設間の格差はあるのかなど、患者さんや患者家族の方から切実な訴えがありました。

また、バンクシステムのところでは、さい帯血の採取施設は増やせないのかという疑問に対して、現状では保存計画を満たしてはいるものの、国民の善意に応えられていないという答弁がありました。さらに、骨髄とさい帯血の情報を一つにしてほしいという意見が出され、いま両バンクで進められている共同事業連絡会議で話し合われていることの一部が紹介されました。

このように、基調報告を含めて、熱い議論は７時間にも及びました。

安全性に問題なし

「単一」より高い生着率

複数さい帯血移植11例に

さい帯血移植は、ドナーに負担がないばかりでなく、迅速かつ至適時期の移植やHLA不適合移植が可能で、重症移植片対宿主病（GVHD）の発症頻度が低いという利点があります。他方、採取されるさい帯血細胞数には一定の限界があることから、特に成人では体重当たりの移植細胞数が少なくなり、造血回復の遷延、生着不全のリスクが高いといわれます。

このリスクを極力防ぐため、日本さい帯血バンクネットワーク（JCBBN）には、さい帯血提供基準の一つに「2.0×10^7/kg以上の細胞数を含むもの」という規定があります。従って血縁者、骨髄バンクにドナーが見つからず、HLA 2抗原以内の不一致さい帯血があっても基準以上の細胞数を含むさい帯血がない場合には移植の機会が得られません。

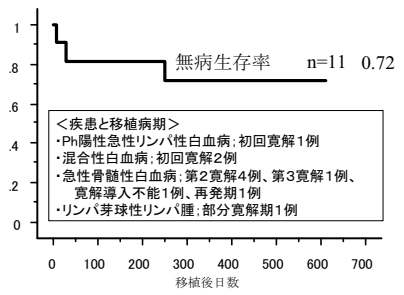
このような場合の新たな試みの一つに、複数さい帯血の同時移植があるのです。欧米の一部施設で開始された複数さい帯血同時移植の報告を受け、我が国においてもその安全性を確認するため、JCBBNの承認のもと、4施設（兵庫医大、東大医科研、大阪府立成人病センター、東海大）で『複数さい帯血同時移植の臨床研究』が行われました。

造血器悪性腫瘍11例に実施され、28日以内の早期死亡2例を除く全例に好中球、血小板生着がみられ、好中球数500/μl以上の到達日数は22日（16〜32日）、血小板数50000/μl以上の到達日数は53日（32〜98日）でした。重症AGVHDは9例中1例（3度AGVHD）だけであり、生着9例のうち1例が再発死亡しましたが、11例中8例が移植後241〜635日（中央値；446日）で無病生存（1年生存率；72%）しています（図）。

この結果は、Minnesotaグループの23例の報告とほぼ同様であり、早期の安全性に関しては問題を認めず、諸外国の多施設共同研究やJCBBNから報告された成人単一さい帯血移植成績より高い生着率が得られ、重症GVHDの発症頻度も高くはありません。また、短期の観察期間ではあるものの無病生存率についても良好な成績が得られています。

この移植法はまだ始まったばかりであり世界的にも症例数は極めて少数です。従って、今後、施設を拡大し症例数を積み重ね検討していく必要があります。その上で、単一さい帯血移植との前方向視的比較研究などを経て、複数さい帯血移植の役割が明らかにされてくるものと思われます。

我が国における複数さい帯血移植の成績



「保護規程」策定へ

個人情報保護対策

4月1日より施行される「個人情報保護法」に向け日本さい帯血バンクネットワークでは、さい帯血をご提供いただいたお母様、ご使用になられる患者さんの個人情報を大切に取り扱うために準備を進めています。

まず、4月からの法律施行に向けて、日本さい帯血バンクネットワークでは「個人情報保護規程」を策定するとともに、各さい帯血バンクでも、それぞれ規程を作成中です。

規程以外にも、さい帯血を提供いただく際の同意書等について、使用目的を明確にし、ご提供いただくお母様に理解いただけるよう改訂の準備を進めています。

本年度の第三者外部評価のテーマは「個人情報保護対策」を選定しました。各さい帯血バンクの個人情報保護の現状を評価し、4月からの法律施行に備えることとしています。

生命（いのち）の幸せを感じてほしいから…

新領域に果敢に挑み、さらに多くの人々に信頼される NIPRO をめざしています。

Medical supplies for the world population

ニプロは、創業以来、「技術」を基盤として発展してきました。
つねに、その技術の分野では世界一となることを目標にしてきました。
医療器、医薬品の各分野で、現在も「これならどこにも負けない」という技術を追求しています。
そして、ニプロには今、必ずや実現すべき夢があります。
遠くない将来、世界有数、いや世界一の医療メーカーとなること。
ニプロが世界のエクセレントカンパニーになるために…

NIPRO
ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

クリスマスに生着確認

ミニ移植受けた山根さんの手記

豪・アデレードで第二の人生

さい帯血によるミニ移植で急性骨髄性白血病の再発を乗り越えた山根節子さんは南オーストラリアの州都アデレードで新生活をスタートしました。充実した生活を楽しんでおられる山根さんの手記をご紹介します。

行きつけのカフェで友人たちと

衝撃「余命数カ月」

1999年12月、クリスマスの直前でした。急性骨髄性白血病を発症し緊急入院。入退院を繰り返しながら化学療法を終えたのは約2年半後の秋でした。体力と気力の回復を図りながら少しずつ普段の生活に戻っていきました。ところが、2003年の9月、遅めの夏休みを過ごしたオーストラリアから戻った直後、身体に変調が起きました。再発でした。

発病を告げられたあの時の何倍ものショックが、私自身に、家族に襲いかかりました。ドクターの説明は、化学療法は身体への負担が重過ぎるので無理、さりとて成り行きに任せれば数カ月の余命、という厳しいものでした。残ったのは、日本でまだ新しい治療法であるさい帯血移植という方法です。私は迷わずさい帯血移植をドクターにお願いしました。

ほどなく適合さい帯血も見つかり12月4日にさい帯血移植は無事終了しました。そして、クリスマスの25日には幸運にも生着が確認されたのです。この時、自分ではまだはっきりとした自覚はありませんでした。ただ、これで血液型が変わるんだな、もう少し生きられるんだなとぼんやり思ったくらいでしょうか。

血液型変化に感動

一時は諦めかけた命と必死で向かい合った移植から2カ月ほどが過ぎ、やっと自分の心に問い掛ける余裕が出てきました。長い入院生活と辛い治療の後、こうして新しい命がふき込まれた私だけれど、それで良かったと思える人生がこれから送れるだろうか。くったくなく笑える日が来るんだろうかと。思い惑うそんな日々が続いたある日、これは元気で生きていかねば！　と自覚したのは、ある兆しがあったからです。

去年、1月半ばのある日のことです。新しい血液、AB坊やがついに自力で立ち上がってきたのです。この感覚があった時、嬉しくて感動して涙が止まりませんでした。何度も何度もありがとうと、新しい血液にも、60年近く命を継いでくれた今までの血液にも心から感謝しました。皆に助けてもらって得た新しい命を大事にしなければ、元気になって一日も早く退院できるようにしなければ、と心に決めたのです。

転地療養を決める

不思議なことに、気持ちが動いたことでそれから治療データもどんどん良くなっていきました。しかし安心はできません。GVHD（移植片対宿主病）の症状は、これから先どんな形でいつ現れるか予測がつかないのです。食事や生活パターンに制約が多く、今までとは全く違った生活を強いられます。でも、新しい命を大切に育てていくには厳しい制約にも甘んじなければと覚悟を決め、自宅での療養生活に入りました。

そして移植後8カ月が過ぎたころ、オーストラリアのアデレードで静養する話が持ち上がりました。体調が落ち着いていたこともあり、清水の舞台から飛び降りるつもりで転地療養を決心しました。病棟や無菌室で命のはかなさ、強さをいやというほど目にしてから、人生に対する考え方が少し変わったのでしょうか。ドクターの心配を気にしながらも、遥かな地で人生を変えよう！　と思ってしまったのです。初めての一人暮らし、体力的にも精神的にもかなりこたえた一人での引っ越し作業、胃が痛くなるほど心配だったビザの延長などなど、試行錯誤の連続だった数カ月が過ぎてこちらの生活を楽しむゆとりもやっと出てきました。

新しい友人が多数

アデレードは気候も穏やかで、自然の中に町が配置されているような本当に心安らぐ地方都市です。私はCityの真ん中に住んでいるのですが、外出すると近所の人々が必ず声をかけてくれます。皆明るくとてもフレンドリーなのです。そのせいでしょうか、年齢、国籍、性別、職業を問わず新しい友人が沢山できました。さらに、素晴らしいホームドクター（こちらではGP－General Practice）にもめぐり合うことができました。フランス語、英語を話し、わかり易く話をしてくれ、紳士的で優しく、この人こそGPにふさわしいと思ったものです。また、こちらのGPは自分の携帯電話の番号も教えてくれるので、緊急の場合にはいつでも連絡がとれます。

私は昨年還暦を迎えました。その節目の年に、日本から遠く離れたこの地で移植後1年目となる記念日をシャンパンでお祝いすることができました。

搬送ボランティア活躍

採取病院訪問記⑥　兵庫さい帯血バンク

兵庫さい帯血バンクは、神戸市内に６、西宮市内に４、その他県内外６市に各１の、合わせて16の施設と提携しており、日本さい帯血バンクネットワークに参加する11バンクの中で最も提携施設数の多いバンクです。その中から今回は尼崎市と神戸市の２施設を訪問しました。

ＮＷ最多の11施設

尼崎市内西部のJR神戸線沿いにある尼崎医療生協病院は15の診療科を持つ中核病院で、兵庫さい帯血バンクが立ち上がった当初からさい帯血採取に協力しています。出産数は年間約600で、昨年２月までに1000ほどのさい帯血を採取し320ほどが保存されています。

さい帯血提供の案内は外来と母親学級で行われていますが「貧血などへの不安な声もあるので映像などわかりやすい資料があるといいですね。プライベートバンクの質問もよくあります」と産婦人科師長の久保ひろみさんは言います。

また、「妊婦さんに強制感を与えないために過度な呼びかけはしないように心掛けています」とも。採取に関しては「注射器で吸引していた時は大変でしたが、現在は採取機器も変わって、分娩台との落差を利用して自然に採取できるのでほとんど手間はかかりません」。

師長の「熱い思い」

次に神戸市中心から地下鉄で30分の終着駅「西神中央」にほど近い高台の、閑静な住宅街にあるのが久保みずきレディースクリニック美賀多台診療所です。こちらは４年前に開院されたばかりの新しい施設で、不妊治療の取り組みや、分娩室にはアロマや音響設備、低反発マットレス分娩台、和室の分娩室など様々な工夫がこらされています。

さい帯血採取施設に認定されたのは03年８月で、認定に至るまでには師長の大内久子さんの熱い思いがあったようです。「以前勤めていた病院でスタッフの教育、施設の整備など、さい帯血採取施設の認定に向けて取り組んだのですが、採取したさい帯血をバンクへ運搬する手段がなくて断念したんです。今回はやっとの思いで実現することができました」。院長の菅原正さんも「採取時の負担はないんですが、搬送してくださるボランティアさんに多くの負担を掛けてしまうのが心苦しいです」と話していました。

菅原院長（左）と大内師長

地域や曜日で分担

数ある採取施設と兵庫さい帯血バンクとを結び付けているのが搬送ボランティアです。30人ほどのボランティアが各地域、曜日毎に分担し、毎朝採取施設に連絡をとって採取の有無を確認し、あれば公共交通機関を使って運搬しています。「ボランティアの中には仕事を持つ方や高齢の方もいます。また交通手段の不便な場所、荒天時など大変なこともありますが、とってもやりがいのある仕事です」と搬送ボランティアの甲斐田芳子さんは言います。

白坂さん（右）、小畠さん（左）と搬送ボランティアの甲斐田さん

さい帯血を提供いただいたお二人のお母さんにもお話を伺いました。１月28日に第一子を出産された白坂麗那さんは友人の勧めで隣の明石市からこちらに来たそうです。「さい帯血を採取している施設ということは母親学級で知りました。説明は自然に受け入れることができたので協力しました。採取量などの問題で保存に至らなくても（幹細胞バンクの）研究で役に立つということなので満足しています」

量と保存率が急伸

車で20分ほどの場所にお住まいの小畠美香さんは、１月31日に第一子を出産しました。「評判が良かったのでこちらの施設に決めました。お産も順調で、主人にも立ち会ってもらいました。先生方がさい帯血を採取しているところは、全く気が付きませんでした。採取してもらえる月曜日の出産でよかったです」と語っています。

同施設では全国の採取施設スタッフ意見情報交換会が行われた昨年10月以降、さい帯血の採取量、凍結保存率共に急増しています。

ご寄付をいただきました

温かいお心ありがとうございます。

■一般

匿名希望（神奈川県）　10万円
匿名希望（京都府）　8万1025円

■５周年記念事業協賛金

村木慶子様（愛知県）　１万円
中村榮一様（神奈川県）　１万円

＜寄付受け付け専用口座＞

郵便振替口座番号　00180-9-57390
口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク